



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.105
こうべ森の学校の歩み
と展望／東郷賢治
2011年12月発行



再度山と修法ヶ池

“ふるさとの山 六甲山の
緑を育て 次世代に継承し
ていく”

実施日：平成23年12月17日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山地域福祉センター

第105回テーマ： こうべ森の学校の 歩みと展望

講演内容

- 六甲山はハゲ山だった
- 市民、行政、企業、協働の森づくり
- 次世代にみどりをプレゼントする



講師：東郷 賢治さんプロフィール
1936(昭和11)年神戸生まれ、75歳。少年の頃より再度山周辺をフィールドとする。36年間余り小学校、養護学校に勤務。1996年退職後、障害者福祉と取り組む。2002(平成14)年市民参加の森づくりに参加。2010年、「都市政策」1月号(都市問題研究会発行142号)に報告をまとめた。

六甲山は今年一番の冷え込み

今回から神戸市立六甲山地域福祉センターに会場を移します。早朝の六甲山は-8℃の寒さだったとのこと。快晴に恵まれ、10時のガイドハウスは0℃、ボランティア10名が集まりました。散策路の植生観察、調査区の観測、そして杉の人工林の測量を行いました。午後の市民セミナーに18名が参加し和やかな雰囲気で行われました。

「市民・企業・行政」協働の校長先生

講師の東郷 賢治さんは、「元校長だったから」と推されて「こうべ森の学校」の代表になられて4年になります。「私がひっくり返った時のピンチヒッターが3～4人いる。事務局も運営のことはやってくれる」、「私は疎いので、そらええやないか、と言うだけ」と、冗談めかして笑顔で話されました。

行政主導で始まり特定企業がスポンサーになり、自由参加の市民が実践する活動は、思惑や利害も輻輳しがちですが、「こうべ森の学校」は参画者それぞれの良さが相乗しています。自然体の東郷さんの持ち味が反映しています。

市民参加の森づくりの先駆事例

「忌憚のない議論」を求められたので期待に応えたいと前置きされ、子ども時代から馴染んでき再度山、修法ヶ原の様子、森林整備事務所との関係を説明されました。

冒頭は「六甲山はハゲ山だった」と題して、明治20年の陸軍測量部作成の地図を基にした再現図で、緑の林地の少なさを強調されました。そして、本多 静六林学博士の植林指導、さらに六甲山のリゾート開発に触れて、六甲山の地質問題の危うさを指摘されました。図表や写真を使った簡明な解説で、治山治水の歴も辿ることができました。

続いて本題の「協働の森づくり」のお話です。2002年の「六甲山緑化100周年」の市民懇話会で、市民、行政、企業が連携した森づくりが提言されました。神戸市

と伊藤ハムの提携で支援体制が整い、2003年に「こうべ森の学校」が発足しました。4年目にログハウスの建築に取り組んだことが契機になり、ボランティア活動が活況になりました。森の手入れの様々な活動が盛んで市民との交流も図る発展をしています。

そして「次世代にみどりをプレゼントする」で、地道な仕事の実態や、生物多様性の保全へのつながり、「繰り返し森に来る子どもを増やしたい」という願いを語られました。参加者は誠実さのこもった熱弁に共感しました。



森の手入れに向かう人たち

こうべの森づくりの発信基地

市民、企業、行政、協働の森づくりが順調に確かな歩みをしていることを実感しました。今回は森づくりの同志という気持ちを味わいました。神戸市民から森の担い手が輩出する拠点になってほしいと期待します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

高橋敬三さん、ありがとう

こうべ森の学校の産みの親は、元・森林整備事務所長の高橋 敬三さんです。六甲山の登山道の管理や、森林の保全整備に力を注がれました。当会が環境整備活動に導かれたのも、高橋さんのお陰です。第3回市民セミナーでは「六甲山の森づくり」を語っていただきました。大変残念なことに、平成23年10月23日に永眠されました。六甲山の森づくりの先達の偉業に感謝し、心からお礼を申し上げます。(堂馬)



講演時の高橋さん

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、イオン環境財団、コープこうべ環境保護基金